

平成 25 年度研究チーム活動中間報告（第 2 回目）

「大学教育におけるタブレット端末利用と大学生の意識調査に関する研究」

研究幹事：中村 典子（国際言語文化センター）

本研究は平成 25 年度総合研究所の研究課題として採択され、マネジメント創造学部教授・井上明、経済学部准教授・林健太、知能情報学部准教授・和田昌浩、国際言語文化センター教授・中村典子の 4 名がメンバーとして参加し、共同研究を進めている。研究チームの活動の 2 年目にあたる 2014 年度は、4 月 30 日(水)、8 月 1 日(金)、9 月 4 日(木)、12 月 19 日(金)、1 月 22 日(木)と 5 回の研究会を開いて共同研究を行ったほか、昨年度に引き続き、ウェブ上の無料グループウェアサービスの一つである Cybozu Live を利用してファイルや情報の共有を行い、また、SNS の一種でオンラインのコミュニケーションツールである LINE を活用し、スケジュール調整やリアルタイムに近い意見交換を各種スマートデバイス端末から試みることで効果的な連携を試みている。

2013 年度に引き続き、2014 年度もスマートデバイスに関するアンケート調査を実施することができた。今回も教務部の協力を得て、My Konan のシステムでアンケート項目を作成後、本学の全学生に対して期間限定でアンケートを実施した（設問項目数は 20 に限定）。今年度は、後期の履修登録の時期に重ねて実施することができたため、第 1 回目のアンケート調査（平成 25 年 11 月 20 日～12 月 20 日）の有効回答数が 698 で全学生の約 7.4%であったのに対して、第 2 回目のアンケート調査（平成 26 年 9 月 23 日～9 月 30 日）では、1 週間という短期間にもかかわらず、有効回答数が 5 倍近い 3343 となり、全学生の約 35%の学生からの回答を得たことで、大変貴重なデータを入手することができた。教務部の担当の方に心より感謝申し上げる。

スマートデバイスの普及率は、学生たちの間でも大幅に増加しつつあり、単なる通信コミュニケーション・ツールとしてだけではなく、様々な情報コンテンツや日々の日常を記録・管理する必需品となりつつあるといっても過言ではない。甲南大学の学生が、スマートフォン、タブレット端末等のスマートデバイスをどの程度利用し、どのように PC と使い分けているのか、実際にスマートデバイスをどのような場面で活用しているのか、また、個人情報管理やセキュリティに対する意識はどうなっているのか、さらに、大学での「学び」にスマートデバイスをどのように活かしているのか、スマートデバイスと外国語学習の関係などを、2 年連続して実施したアンケート調査の回答データを基に分析した。そして、今後の大学教育におけるスマートデバイスの活用方法やその方向性などを提案する目的で、情報教育研究センターの 2014 年度の紀要（2015 年 3 月発行予定）に、研究チームのメンバー全員で「甲南大学における学生のスマートフォン・タブレット端末の利用状況と大学教育における活用度調査」という論文を投稿したので、なんらかの機会にご参照いただければ幸いである。

研究期間：平成 25 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 1 日